

あなたの生き様は合格？不合格？

<『受験』について考える①>

いよいよ、公立高等学校の受験日まで間もなくとなりました。

受験というのは、受験戦争などと呼ばれるように、人生の大きな試練でもあり、ここ一番の人生の勝負どころでもあります。

私は、高校3年時の2月のとある朝、第一志望である京都の某大学を受験するため、前日に京都入りしようと、在来線から東京駅で東海道新幹線に乗り継ぐために家を出ました。

東京駅に着いて、さあこれから新幹線に乗ろうとした時に緊急事態が発生。なんと、受験票を忘れたことに気が付いたのです。

家を出るときに母親から「忘れ物はない？」と聞かれ、(いつもいつも本当にうざいなあ。もうガキじゃないんだから)と思いながら「うるさいなあ。大丈夫だよ。」と面倒くさそうに苦々しく言い放った手前、とてもバツが悪い思いで自宅に電話しました。

「じゃあ、これからお父さんに届けてもらうように頼むから。」という母の電話での返答に、目の前が真っ暗になりました。(よりよってオヤジかよ。)この世で一番怖い存在の父親にどれほどこっぴどく怒られるかと思うと、針のムシロで待った1時間余りの時間は、とてつもなく長く長く感じられました。

東京駅にやってきた父は、受験票を自分に渡すと、そのまま踵を返して何も言わずに帰っていきました。どれほど怒鳴り散らされるかと、場合によっては殴られるかとも覚悟していたのに拍子抜けする思いでしたが、明日の本番に向けて父親なりに気を遣ってくれてぐっと怒りをこらえてくれたというよりは、怒りをはるかに通り越してあきれ果てていたのだと思います。

数日後の合格発表の日。インターネットなどなかった時代でしたし、受験した大学が遠方だったために、電報での合否連絡の手続き

をとっていました。電報を受け取るのは、この時が生まれて初めてで、多分これからもない経験だと思います。コタツで横になってテレビを見ているところに、顔見知りの郵便配達員のおじさんが電報を届けてくれました。

「ムネン サイキヲキセ」（無念 再起を期せ）。なるほど、こういう場合、「フゴウカク」（不合格）なんて直接的な表現はしないんだ、「サクラチル」（桜散る）なんてのが極々一般的なのにこの大学はそうじゃないんだ、と、なぜかどうでもいいことに思いを巡らせながら、他人事のように淡淡とその結果を受けてとめたことを鮮明に覚えていきます。

そして、我に返ると、不合格であったことをがっかりすることよりも、両親に合わせる顔がないなあというやるせない気持ちに覆われました。

さて、3年生の皆さん、来月には公立高校の入試結果が出ます。私はあえて合格しても「おめでとう」というつもりはありませんし、不合格になっても、かわいそうだとも思いません。

なぜなら、合格した人が勝者で不合格の人が敗者ではありません。合格したから幸せで不合格が不幸ではないのです。

受験で一生は決まらないのです。入試にせよスポーツ等の大会にせよ、競争事や勝負事では勝ち負けや白黒がつくのは当たり前でしょうが、重要なのはその結果ではなく、それまでの過程であり、その結果からどのような教訓を得てその後の人生をどのように歩むかということだと思っています。

私は大学受験の頃、自分は受験生という特別な立場で、大きなプレッシャーの中でみんなの期待にも応えようと必死に頑張っているんだから、と自分を自分で特別扱い視し、家族みんなのやさしさに甘えて、自分が気に入らないことがあると周りにつらく当たったりするなど我がまま放題の日々を送っていたいような気がします。

この受験の不合格で得た教訓は、周囲のやさしい気遣いにも気づかず感謝の気持ちももてないような、心に余裕のない未熟な人間には、大事を達成することなど到底できないということです。

たとえ必死に最大限の努力をしようとも、受験に向かう息子にやさしく声掛けしてくれた母親に悪態をつき、自分の不始末のしりぬぐいを父親にやらせてしまうような不心得者・親不孝の人間などに、

天の神様は微笑んでくれないということです。

3年生が卒業後迎える高校3年間、いやその後の人生にとって、実はこれからの一か月余りは極めて重要です。志望校に合格した人は、いつまでも浮かれていないで、ふわふわ、チャラチャラした気分で過ごさず、助走をつけて高校に進んでください。ふわふわ、チャラチャラしたままで進学すると、そのままの雰囲気では高校3年間は過ぎていきます。

逆に、志望校に合格できなかつたら、しばらくは、悲しくてつらい思いをするかもしれません。でも、本当にそのことが心の底から悔しいと思うならば、その屈辱やせつなさをいつまでもいつまでも忘れずに、この借りをいつか返すんだという意気込みでこれからの人生を歩んでもらいたいものです。

15年前にすでにあの世に旅立ち天国にいる父よ、今年で米寿(88歳)を迎え多少痴呆気味の母親よ、あの電報を受け取った日以降の私の生き様は、合格ですか？それとも不合格ですか？